

瞬く間に春学期の3分の1が過ぎてゆきました。多事多端な学業生活の中、帰国後の自身の身の振りに不安を感じながらも、現在は目の前にある物事と向き合っていく事で精一杯といった状況です。本報告書では、授業の経過と近況を報告します。

AE420 (有限要素法)

すでにテキストの半分の講義を終えてしまいました。先日、全部で3つあるプログラミング課題のうちの1つ目を難無く提出することができ、ほっとしているところです。ただ、妙にスムーズに事が運んだので奇妙に感じています。また、これまでレポートは3つ課され、全部それとなく問題を解いて提出しているのですが、予想以上に採点が厳しく、満点のつもりで提出した課題でも7割で返ってくるなど、他の科目に比較するとなかなかシビアな科目です。中間試験を3月の2週目に控え、過去問を眺める限り、そろそろ準備を始めないと単位取得には限りなく望みが薄くなりそうなので、これからしっかり時間かけて取り組んでいこうと考えています。これまで、授業の流れについていて、きちんと学んでいるという充実感があるので、この良い流れで最後まで辿りつけることを願うばかりです。

AE410 (数値流体力学)

当初はこの科目を履修する予定はなかったのですが、他に受けた科目がなかったため履修に踏み切った科目です。しかし、この科目は私が想像していたより興味深く、2週に1度のペースで課されるレポートには毎回興味を持って取り組む事ができています。先生にも恵まれ、講義はとても丁寧で、要所毎に噛み砕いた表現を用いて解説してくれる上、レポート課題で議論すべきポイントについても予め解説してくれるので、授業内容に関して理解に困ることは少ないです。レポート課題の大半はFortranで記述されたソースを用いて、与えられた問題を計算する形式で、極めて単純なのですが、与えられた命題に対して、それを評価するためにはどのような計算結果を用いて比較・検証すべきなのかをしっかりと見極めないと、非常に時間がかかってしまう可能性があります。いつになっても自己判断というのは気が滅入るもので、「自分の選択は正しいのかどうか、より良い方法があるのではないか」という不安や疑問を感じずにはいられません。兎にも角にも自信を持ってやれるだけのことをやるというのが大事だと最近強く感じます。

AE353 (航空制御工学)

恥かしながら、私が学部生だった頃はまったく制御工学の授業についていけず、何をやっているのかさっぱり解らない状態だったのをそのまま放置してこここまでやってきました。そのことを踏まえて、せめて最低限の知識は身につけたいと思い、履修を決めた科目です。不思議なことに、当時から4年後の現在、授業で解らない事の方が少ないのが現状で、これまでに何かしらの形で身につけてきた背景知識が制御分野で要求される知識のコンセプトの理解に役立っているのがよくわかります。やはり、何を勉強するにしても、勉強の目的や何をするための学問なのかを把握していないと理解できることも理解できなくなると感じました。

今学期は、前学期に比較して、レポートを書くため、また、授業の理解を深めるために本を読む時間が増えました。これまで忙しい中にも本を読む時間が作れていることは評価できる事として振り返ります。今後はより時間を上手に管理して時間を有効に活用していきたいです。また、最近は客観的に自分自身について考える事が多くなり、特に英語力の面において悩みは絶えないといった心境です。ただ、ぼんやりとですが、今後、英語運用能力の向上に向けて自分が取り組むべき課題とその解決方法がみえてきたと思うので、その他不安に思う事は多々ありますが、それらすべてに対して前向きに頑張っていきたいと思えます。以上で2月分の留学報告書とさせていただきます。